

「ふくぎんSDGs宣言」の制定について

福島銀行（取締役社長 加藤 容啓）は、「ふくぎんSDGs宣言」を制定し、社会の課題、経済の課題、自然環境の課題などについて積極的に取り組み、事業活動を通して、地域経済・地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。

○ 社会の課題への対応

- ・ 全社員参加型ボランティア活動の継続
- ・ 寄付型融資・寄付型私募債の取り扱い
- ・ 障がい者施設製品の販売促進
- ・ 福島の子ども応援助成金の支給
- ・ 社員が業務と子育てを両立できる環境を提供する取り組みである「イクボス宣言」の実施



○ 経済の課題への対応

- ・ お客様の本業を徹底的に伴走支援
- ・ SDGsに資する商品・サービスの提供
- ・ お客様の生活を支援し、最適な資産形成をサポート
- ・ 地域事業や行政と連携した地域経済への貢献



○ 自然環境の課題への対応

- ・ 再生可能エネルギー関連融資への積極的な取り組み
- ・ サステナブル関連融資への取り組み
- ・ DX化の推進によるペーパーレス化など環境負担の軽減
- ・ 公益信託福島銀行ふるさと自然環境基金の継続



○ 全員参加のSDGs活動

- ・ 営業店や部署ごとにSDGsの目標を掲げ、私たちが暮らす地域のよりよい環境と暮らしやすい社会づくりに貢献します。

「ふくぎんSDGs宣言」の主な取り組み

課 題	事 業 名	概 要
社会の課題への対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全社員ボランティア活動 2. ふくぎんESGかんしゃ絆ローン 3. 寄付型定期預金「わくわくくら」 4. 障がい者施設製品の販売促進 5. 福島の子ども応援新助成金の制定 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全社員が1人年間2回を目標に、ボランティア活動を実施しています。2020年度は、延べ1,077回実施。 2. 募集目標額100億円達成後、環境問題や社会問題の解決に取り組む団体や個人に対して、総額100万円を寄付します。 3. 寄付型定期預金の2022年3月31日残高×0.003%相当分を福島県内の福祉関連団体へ寄付します（上限30万円）。 4. 例年県内を中心に、約90先の授産施設が参加。2021年度は過去最高の売上高514万円を達成。障がい者施設製品の販売を共に行うことで、障がいを持つ方の自立を支援します。 5. 子どもの教育を支える活動や子育てを支援する活動などを行う団体や個人に対する新たな助成金を新設し、運用を開始します。
経済の課題への対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 取引先の経営課題の解決支援 2. 最適な資産形成支援のサポート 3. 個人取りまとめ融資による生活再建支援 4. 地域事業や行政との連携 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 販路拡大、人材紹介、DX化の推進や事業承継など、事業性評価に基づき、お客さまが抱える課題解決を図り、本業支援を徹底的に伴走支援します。 2. お客さまの描く未来を共有し、ローン商品の提供や資産運用相談など、ご意向に沿った質の高い資産形成サービスを提供します。 3. 多重債務に苦しみお客さまや廃業を希望されるお客さまとの対話を重ね、債務取りまとめなど生活再建を支援します。 4. 「ふくしまイノベーション・コースト構想」など地域事業や行政と連携して地域の活性化、地方創生に貢献します。
自然環境の課題への対応	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再生可能エネルギー関連融資への積極的な取り組み 2. サステナブル関連融資への取り組み 3. DX化の推進によるペーパーレス化など環境負担の軽減 4. 公益信託福島銀行ふるさと自然環境基金 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 太陽光発電・風力発電など地球環境に優しいグリーンエネルギーの普及に積極的に貢献します。 2. 環境・社会課題解決の促進を金融面から支援し、持続可能な社会の実現に貢献します。 3. 「PC 1人1台化」による業務改革・業務効率化などDX化を推進し、ペーパーレス化など環境負担の軽減に取り組みます。 4. 自然環境の保全を図り、自然と人間の調和のとれた社会づくりに資することを目的に、自然環境の保存や活用に関する活動を応援します。2021年度まで81先1,882万円の助成金を支給。